



みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会
 発行人 金高 雅仁
 223-0056 横浜市港北区
 新吉田町6001-9
 TEL.045-590-1595
 FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>



盲導犬育成の新たな拠点
 広島に誕生、

2027年秋、協会にとって5番目となる盲導犬の育成施設「広島訓練センター」が誕生します。街中の利便性と訓練に適した環境を備え、背後には自然も広がる立地です。視覚障害のある方が身近な地域で訓練や支援を受けられる環境づくりを目指し、建設が進行中。写真は完成イメージパースと、3月22日に執り行われた地鎮祭の様子(3ページへ)

新たな地域連携と国際協力の強化

2月に当協会の東京事務所が西早稲田に移転し、新たな拠点での事務が始まりました。渋谷区神泉町の事務所は、22年前の入居時には10名未満だった職員も23名に増えて手狭になっていましたが、移転により十分なスペースとなりました。近隣には、卒業生が各界で活躍する筑波大付属視覚特別支援学校など視覚障害者関連施設も多く、お隣の戸塚警察署では、昨年、同校出身のパラリンピック代表選手達を一日署長に招いて交通安全イベントが行われました。私達も、地域や関係団体との連携に努めて参ります。皆様もお気軽にお立ち寄り下さい。

また、今月から、広島訓練センターの建設工事が始まりました。当協会が創立60周年を迎える2027年の秋に、5番目の訓練センターとして開所予定であり、西日本の活動拠点としての機能も期待されます。

今年度は、世界との交流を広げる年でもあります。5月に国際盲導犬連盟 (IGDF) の総会が横浜で開催され、30カ国、約100団体から300人近くの実務家が参加して、盲導犬事業の現状や将来について意見交換を行います。日本での開催は12年ぶりであり、これを機に、世界とも一層連携を強化したいと考えています。

新たな拠点での地域や関係団体との連携強化、会議を通じた国際協力の強化を図り、盲導犬育成事業を一層発展させるため、役職員一同邁進致しますので、よろしくお願い申し上げます。



公益財団法人
日本盲導犬協会
理事長
金高雅仁

TOPICS!

主なできごとの中から
ピックアップ

2027年秋、広島に新たな一歩 広島訓練センター開所へ



↑広島訓練センターの完成イメージパース。街中の利便性と自然環境を兼ね備えた立地に誕生予定

協 会は、盲導犬の育成や、視覚障害のある方と犬がともに共同訓練を行う「広島訓練センター」を、広島市南区比治山本町に建設します。開所は2027年秋を予定。広島訓練センターは、協会にとって5番目の訓練センターとなります。

これまで島根あさひ訓練センターのほかには、中国・四国地方に盲導犬の共同訓練ができる施設がなく、盲導犬を希望する方の多くは関東や関西の施設まで足を運んでいました。視覚障害のある方が、より身近な地域でサービスを受けられる環境を整えるため、今回の計画が進められています。立地はJR広島駅から広島電鉄で約8分。中国・四国各地から訪れやすい場所に誕生する、初めての都市型訓練センターです。

センターが担う役割は大きく3つあります。1つ目は、より多くの良質な盲導犬を育成する拠点となること。2つ目は、協会の活動や盲導犬について広く知ってもらい、視覚障害のある方への理解を社会に広げていくことです。3つ目は、

参加
設
→3月22日には、広島市南区の建設予定地で地鎮祭が執り行われ、協会役員ほか、関係者ら24人が



見えない、見えにくいことで困っている方が気軽に相談できる拠点となること。盲導犬に関することに限らず、白杖歩行訓練など、視覚障害のある方が安全に移動し日常生活を送りやすくするための訓練や支援も行いながら、視覚障害のある方や支援団体とのつながりを広げていくことを目指しています。

建物は街と調和する外観とし、犬の鳴き声や匂いなどにも十分配慮した設計に。地域に負担をかけない施設であることを大切にしながら、広島の地に根ざした訓練センターを目指します。

日本盲導犬協会の歩み 2026.1.1 ~ 3.31

- 1月15日 第10回常任理事会
- 2月18日 第11回常任理事会
- 3月6日 第12回常任理事会
- 3月18日 第3回理事会



↑1月18日、日本盲導犬協会、日本介助犬協会、シャイン・オン・キッズの3団体が「医療専門職のための動物介在療法シンポジウム」を共催。当協会は盲導犬の役割のデモンストラーションを行いました



↓3月3日、相模原市の本村賢太郎市長を訪問。ユーザーとの対話に加え、手引きによる誘導体験を行いました



↑3月16日、越谷市の福田晃市長を訪問。盲導犬の受け入れや音響式信号機の必要性について話しました



↑2月5日、盲導犬ユーザー2名とともに、沼津市の頼重秀一市長を訪問。ユーザーが視覚障害者としての困りごとを伝えただけ、市長による手引きでの誘導体験を実施

●各センター活動報告(1月~3月)

(2026年3月31日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	8回	1回	2回
	パピーレクチャー	22回	10回	10回
	パピーウォーキング修了式	3回	4回	1回
	ユーザーフォローアップ	38回	9回	19回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	9回	1回	5回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー	5回		
	短期リハビリテーション	0回	2回	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	164回(138人)	194回(185人)	64回(147人)
	受け入れセミナー	5回	13回	14回
普及推進活動	小・中学生向け講演	19回	15回	2回
	一般向け講演・贈呈式・募金活動等	13回	10回	8回

横浜で開催される「国際盲導犬連盟カンファレンス」初の市民公開講座も実施

国際盲導犬連盟 (IGDF*) が2年ごとに開催する「国際盲導犬連盟カンファレンス」を、2026年は当協会が主管となり横浜市で開催します。開催日は5月14日~17日で、世界各国の盲導犬育成団体の職員や研究者などが集まり、300人以上の参加が予定されています。



↑国際盲導犬連盟カンファレンス2026のキービジュアル。横浜から世界へ、盲導犬の未来を発信します

今回は「盲導犬の未来を拓く」というテーマで、盲導犬の育成技術に関する各国の取り組みや研究事例など、全31題の発表が予定されています。盲導犬育成において各国が直面している課題には共通する部分も多くありますが、それぞれの文化や生活スタイルの中で培われてきた知見は多様です。本カンファレンスでは、

そうした経験や考え方を共有し合い、互いに学びながら、盲導犬の育成や運用の未来をよりよいものへと発展させていくことを目指しています。

また、神奈川訓練センターと富士ハーネスの見学ツアーも予定されており、多くの参加者による活発な意見交換が期待されています。

本カンファレンス初の試みとして、5月15日には一般公開の市民公開講座も開催予定。盲導犬ユーザー、ボランティアの方、一般の方など、どなたでも参加できます。

*IGDF(=International Guide Dog Federation、国際盲導犬連盟)とは、目の見えない人、見えにくい人々の独立した歩行手段として盲導犬の提供を推進する加盟団体の取り組みを支援することを目的に、1989年に設立された団体。30の国と地域、100以上の団体が加盟しています

詳細はこちら



メディア掲載件数

- テレビ・ラジオ 23回
- 新聞 27回
- WEB 32回
- その他(雑誌など) 15回

主な放送・掲載

- 1月6日 福祉新聞 協会のリリース「盲導犬および視覚障害に関する意識調査」を紹介。視覚障害者への声かけに抵抗感のある人が多く、協会が声掛け方法を紹介している掲載
- 1月10-17日 .. 読売新聞 歩行訓練士が全国で不足している現状について、山形県では訓練士が不在のため、協会職員2名が県内で歩行訓練を実施したと紹介された
- 1月7-11日 ... 山形朝日新聞、WEB1件 静岡県立富士宮東高等学校で実施された「声かけサポーター養成講座」で、協会の歩行訓練士が講師を務め、手引き歩行体験などを実施したと紹介
- 1月15日 広島テレビ「広テレnews」ユーザー弓場さんが受け入れ拒否の体験について語り、身体障害者補助犬法が周知されていないと協会職員がコメントしたと紹介された
- 1月28日 NHK「しまなつ」、他テレビ1局、WEB1件 島根県江津市江津東小学校で江津ライオンズクラブ主催の盲導犬教室が開催され、ユーザー道場さんと協会職員が講義したと掲載
- 2月11日 静岡新聞 2月5日、ユーザーの鎌野さんと杉山さん、富士ハーネスの佐野センター長が沼津市の頼重市長を訪問。受け入れ拒否の実態や声掛けの必要性を訴えたと掲載
- 2月12-19日 .. エフエム富士「ACTUS SDG sみらいレポート」盲導犬や視覚障害について、受け入れ拒否の現状やボランティアの募集、イベントの告知などが掲載された
- 2月16日 中国新聞他WEB3件、SNS1件 広島市南区に協会が訓練センターを建設予定と伝え、視覚障害者の日常的な相談に応じる施設を目指す、高野常任理事のコメントを紹介
- 2月25日 テレビ神奈川 川崎市で「盲導犬新ユニット出発式」が開催され、新たにユニットとなった盲導犬とユーザー14組が出席し、今後の抱負を語る様子が紹介された

*協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください

新たな歩みの門出を祝って 盲導犬新ユニット出発式を開催

2月25日、川崎日航ホテルで神奈川訓練センターの「盲導犬新ユニット出発式」を開催しました。盲導犬との新しい歩みの門出を祝い、ユーザーや支援者、関係者が一堂に会しました。

今回デビューしたのは19ユニット。そのうち14ユニットが出発式に参加し、盲導犬との新たなスタートを共に祝いました。会場には多くの支援者が駆けつけ、新ユニットの門出を温かく見守りました。

式典では、ユーザーから盲導犬との暮らしについてのエピソードも披露されました。「盲導犬のおかげで人生が本当

に変わりました。海外では“ライフチェンジャー”と呼ばれることもあるそうですが、私にとっても生活と人生の両方が大きく広がりました」と語る場面もあり、盲導犬との歩みが日々の生活を支える大きな力になっていることが伝わりました。

また「盲導犬とおそろいのコーディネートを楽しんでいます」「旅行が好きで、この子と一緒に北海道や九州にも出かけました」など、盲導犬と共に広がる日常の楽しみについても紹介され、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれました。

新しいパートナーと共に歩み始めた盲導犬ユニット。会場は大きな拍手で包まれ、それぞれの未来へエールが贈られました。

式典後は支援者がユーザーに声をかけ、写真を撮るなど、交流のひとときが広がりました。

◀盲導犬新ユニット出発式の様子。新たなパートナーと歩み始める門出を、多くの支援者が見守りました



動物福祉の講習会を実施 協会における盲導犬事業の取り組みについて再確認

2025年12月14日、当協会の訓練や事業が動物福祉の国際的な考え方に則したものであるかを確認・整理することを目的に、講習会を開催しました。講師は、動物行動学を専門とする日本獣生命科学大学の水越美奈教授。講習会では、トレーニングの分野において国際的な指標となりつつある「LIMA※1」や、動物福祉における「5つの領域（5 Domains）※2」の考え方を中心に学び、理解を深めました。

本講習を通して、協会がこれまで大切にしてきた訓練を始めとする盲導犬事業の方針が、動物福祉の考え方に沿っていることを改めて確認。これまでの取り組みが国際的な方向性に則していることが裏付けられ、今後の活動方針も

より明確になりました。日本と欧米諸国では、文化的背景の違いにより、動物と人との関係性についての考え方が異なる部分もあります。こうした違いを踏まえ、日本特有の取り組みを活かしつつ、他国の良い手法も取り入れながら、事業を進めていくことが大切です。協会では、今後も広く情報発信を行い、活動への理解を広げていきます。

※1 LIMA: [Least Intrusive Minimally Aversive]の略称。動物のトレーニング手法における倫理基準
※2 5つの領域(5 Domains): 栄養、環境、健康、行動、精神状態。動物福祉を多角的に評価する枠組み

異なる「見えにくさ」の体験を通じて、 「本当に必要な支援」を学ぶ

1月29日、静岡市にある地域リハビリテーション推進センター主催で「令和7年度 視覚障がい支援者研修会」が行われ、歩行訓練士の資格をもつ協会の職員が講師を務めました。本研修には、視覚障害者や介護関係の相談・支援に携わっている方、行政機関の担当者など14人が参加しました。

参加者の多くは「視覚障害者がどのような支援を必要としているのか」と日頃から考えており、より良い支援を目指して研修に臨んでいました。

視野狭窄、中心暗転、コントラスト低下といったロービ

ジョンの方の「見えにくさ」やその違いを体験できる眼鏡を着用して、文字の読み書きや移動など日常生活の動作を体験し、支援方法を学びました。それぞれ異なる「見えにくさ」に対して、文書の場合は文字の太さや色によっては読める場合があること、書類への記入はケイ線や枠の工夫で書きやすくなることなどを体感できたことで、「どのような支援を必要としているのか」が明確になったという声も多く聞かれました。

今回の研修では、支援する側とされる側の両方を体験し、支援はする側の気持ちや判断で行うのではなく、支援される側の「自己決定」を尊重する大切さを実感できる機会となったようです。

視覚障害者への支援に積極的に取り組んでいる静岡市では、定期的に支援者に向けた研修を行っています。今回のような行政と協会の連携は、多くの人の視覚障害者への理解が広がるだけでなく、視覚障害者がより厚い支援を得られる行政のしくみを共に作っていく一歩となります。今後も静岡市をはじめさまざまな行政と連携しながら、このような実践的な場や機会を増やせるよう取り組んでいきます。



↓誘導体験では、リハビリテーション用にシッラえられた部屋を使用。日常生活での支援方法をペアで実践し、これからの支援のヒントとしました



↑視野が狭い視野狭窄、中央が見えにくい中心暗転、色の濃淡や明暗が識別しにくいコントラスト低下など、「見えにくさ」の違いを体験できるキットを使用し読み書きを。「白内障と視野狭窄では見え方が全く違い、困りごとや必要な支援も異なることが分かった」という声も

「盲導犬および視覚障害に関する意識調査」から見えてきた 盲導犬に関する正しい知識を普及する必要性

当協会は、2025年12月に飲食業や宿泊業、公共交通機関など10業種の従業員1,000人を対象に「盲導犬および視覚障害に関する意識調査」を実施しました。この調査は2024年8月に続き2回目の実施となります。

調査では、「今後、盲導犬ユーザーの利用を受け入れるか」という設問に対し、「受け入れる」と回答した割合が59.6%で、前回調査の52.6%から7ポイント上昇しました。業種別では交通機関（鉄道）が最も高く、70.0%が受け入れ意向を示しました。注目すべきは、前回調査で5割を下回っていた、飲食業、医療業、小売業、不動産賃貸業、生活関連サービス、娯楽業などを含む全10業種において、5割を超えた点です。

いずれの業種においても、「受け入れる」と回答した理由として、「盲導犬の訓練や衛生・安全面への理解」や「法律での定め」が挙げられ、特に公共交通機関では盲導犬ユーザーの受け入れ経験の多さや職場での研修実施などが背景としてあると考えられます。

その一方で、「受け入れない」「どちらともいえない」との回

答に繋がった理由は、「衛生面の懸念」「アレルギー対応の難しさ」「他利用者からの苦情懸念」が多く、従業員の約4割が受け入れに躊躇していることがわかりました。

多くのシーンで盲導犬ユーザーが受け入れられる社会を実現するためには、盲導犬やユーザーによる犬の管理義務などに関する正しい知識の普及や不安解消の取り組みが必要不可欠と考えています。

調査結果の詳細は協会ホームページからご覧ください。



↑盲導犬の衛生管理や行動管理は、ユーザーが責任を持って行っています

詳細はこちらから



スタートライン

Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2026年
2月までの
共同訓練
卒業生

●各ユーザーの紹介項目

ユーザー名・住地(盲導犬歴)
盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種

- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名

●犬種記号

LR: ラブラドル・レトリバー
GR: ゴールデン・レトリバー

神奈川訓練センター

力を抜いたら、歩きやすい! ヨルと見つけた新しいリズム

神 奈川県藤沢市で鍼灸院を営む倉垣内聡美さん。外出が大好きで、毎日をアクティブに過ごす60代のユーザーです。今年のはじめに2頭目のパートナーとなったのは、尻尾の先がきゅっと曲がったところがチャームポイントの黒ラブ、ヨル。「最初に会ったとき、「あ、すなおな子だな」って思いました」と倉垣内さん。指示にもきちんと従い、道を覚えるのも得意。自分の知っている道へ行きたがることもありますが、「今日はこっちな」と違う道を指示すると、ずっと気持ちを切り替えてついてきてくれるそうです。「うれしいときも大はしゃぎはしないんですよ。そっと手の甲に鼻をつけてきて…それがまた、かわいくて！」と声がやわらぎます。

今回の共同訓練の大きなテーマは、「ヨルとの新しい役割分担」でした。先代のパートナーであるアイジュとは、長く一緒に歩く中で、安心感から点字ブロックを頼りに歩くスタイルが自然と身につけていました。一方、ヨルはセンターでの訓練を終えたばかりで、盲導犬歩行の基本である左側に寄って歩く動きがしっかり身につけています。そこで共同訓練では、盲導犬歩行の基本に立ち返り、倉垣内さんは周囲の状況から自分の位置や目的地までの大きな方向をつかむ役割を担い、段差や角では点字ブロックに頼るのではなく、ヨルの動きに合わせて歩く方法を練習してきました。

訓練の中では、ハーネスの接続部分にも工夫を加えました。左右で大きさの違う金具を装着し、少し「遊び」をつけたのです。「それだけで、ずっと力が抜けたんです。ヨルも歩きやすそうで、私も楽になりました」。この工夫によって、力を抜いて歩く感覚がつかみやすくなり、ヨルの動きに合わせる

歩き方もより実感できるようになりました。当初は2週間での認定を予定していましたが、訓練士から「もう少しこの感覚を定着させてからにしましょう」と提案があり、倉垣内さんも同意して期間を延長しました。

日々の暮らしも、少しずつ息が合ってきています。朝4時に起きて給餌、6時半からは丁寧なグルーミング。「毛並みがきれいってよく言われるんですよ。



倉垣内 聡美さん
神奈川県藤沢市(2頭目)
ヨル(♀)LR
①2026.1.26~2.9
②志田 良太郎さん

↑お気に入りの散歩コースをヨルと。朝は小学校に立ち寄り、登校する子どもたちを迎えるのが日課です



↑季節の花が楽しめるお気に入りの公園でひと休み。遊びの時間には、大好きな「またぐり」を楽しみます

うれしくて、つい念入りに」とにっこり。仕事中はケージで落ち着いて過ごし、ケージから出ているときは膝の上にちょこん。「ケージの中が落ち着くみたい。でも出ると甘えん坊なんです」。スキンシップの時間が、絆をさらに深めています。

盲導犬と歩こうと思ったきっかけは、イベントでの体験歩行でした。人混みの中をスムーズに歩けることに驚いた一方で、「見えない私に犬のお世話ができるのかな」という不安もあったといいます。その後に体験した手入れの練習で「これなら私にもできるかもしれない」と感じ、申し込みを決めました。子どものころに犬と暮らしていた思い出がよみがえり、その夢が今、ヨルとともにかなっています。「一緒にいると、生活の豊かさぐと上がります。かけがえのない相棒ですね」。

夏には、ヨルと一緒にどこか涼しい場所へ避暑の旅に出かけたいと考えています。「開放感のある場所を、ヨルと一緒に歩いてみたいですね」。新しい相棒と見つけた歩き方。倉垣内さんとヨルの毎日は、これからも少しずつ広がっていきます。

島根あさひ訓練センター



足立 明子さん
岡山県新見市(2頭目)
ヨッキー(♀)LR
①2026.1.12~1.23
②稲田 定博さん

自宅の周りや、訓練で歩いていた環境との違いに、最初はヨッキーも困っていたようです。本当に歩けるのか心配でしたが、1か月が経ち、私とヨッキーで歩いていけると思えるようになりました。家では、人にくっついて歩いてみたり、のんびり寝ていたり、前からいたようにふるまっています。ワンツー(排せつ)はバッチリで、出かける時も安心です。鳥や蝉の鳴き声、水の流れを楽しめる公園など、一緒に歩ける範囲を広げていきたいです



酒井 理絵さん
松山市(2頭目)
ヴェラ(♀)LR
①2025.12.1~12.11
②佐々木原 亮さん

週3回、ヴェラと一緒に電車やバスを乗り継ぎ仕事に出かけます。家に帰ると、部屋中を走り回ってピョンピョンしたりして、お転婆ぶりを発揮。特に、初めて歩く道では、観光地にやってきた女の子みたいにキョロキョロして、「こんなものがあるよー」と止まって教えてくれることも。「そこは角じゃないよ、まっすぐ歩いてね」と二人で会話しながらやっています。ヴェラと信頼関係を深めて、クラシックコンサートや福祉体験教室にも行ってみたいですよ

2026年度 事業計画・収支予算

盲導犬育成事業

- 1 視覚障害者への歩行指導と盲導犬貸与
 - ・38ユニット以上の盲導犬を育成
- 2 犬の飼育及び訓練
 - ・候補犬100頭を訓練
 - ・盲導犬の基準を満たす犬40頭を育成
 - ・105頭の子犬を安定確保
 - ・105頭をパピーウォーカーに委託、安全かつ健康にパピーを育成
 - ・盲導犬の引退は約30頭。富士ハーネス引退犬棟及び引退犬飼育ボランティアと連携し、引退犬のQOL向上に努める
- 3 ケンネル業務の質の向上と効率化
 - ・疾患を早期発見し、発病件数を低減
- 4 盲導犬ユーザーへのフォローアップ(FU)
 - ・1年以内のアフターケアの充実を図りながら、年1回の定期FUを実施
 - ・歩行の安全性確保のための問題解決型FU、より快適な歩行のための課題解決型FUを実施

- 5 盲導犬訓練技術の向上
 - ・新資格制度に則り、目標設定を行い、OJTに取り組む
 - ・拠点を跨いだ現任研修に取り組む
- 6 各種研修会への参加
 - ・協会内外の各種研修会等への参加、自己研鑽、自主研究を奨励
- 7 犬舎・施設改修整備
 - ・広島訓練センター竣工を目指す

盲導犬歩行指導員等育成事業

- 1 協会が運営する訓練士学校の学生3人を職員として採用
- 2 盲導犬准訓練士資格、盲導犬訓練士資格、盲導犬歩行指導員資格の取得に向け、職員5人を養成

調査研究事業

- 1 盲導犬の人工繁殖・育種技術の研究継続及び疾患改善へ向けた調査
- 2 大学との研究協力・連携
 - ・東京大学付属動物医療センターおよび理化学研究所と共同研究を行い、疾患傾向をゲノム解析を通して探求

視覚障害支援事業

- 1 盲導犬歩行についての理解促進
 - ・視覚障害リハビリテーション施設・視覚支援学校・当事者団体向けの盲導犬体験歩行会を65回、盲導犬説明会を12回開催
- 2 ユーザーコミュニケーション
 - ・出発式や盲導犬6歳時コミュニケー

- ション会を実施
 - ・『パートナーズ』と『盲導犬通信』の発行、オンライン交流会を開催
 - ・盲導犬ユーザーの満足度に関するアンケート調査を実施
- 3 視覚障害者在宅生活訓練
 - ・全拠点で1,000コマの在宅訓練を実施
- 4 視覚障害リハビリテーション相談
- 5 短期視覚障害リハビリテーション
 - ・スマイルワン仙台で3回実施
- 6 視覚障害児キャンプ
 - ・スマイルワン仙台にて開催
- 7 各種講習会の開催
- 8 関係団体との連携
 - ・慶應義塾大学病院と共同研究中の「ロービジョンケア・ハブ」の運営を継続
- 9 各種研修会への参加

広報・普及推進事業

- 1 盲導犬や視覚障害の理解促進活動
 - ・事業者等に対し、視覚障害者への適切な情報提供や移動支援、障害の捉え方についてセミナーを実施
 - ・ユーザー在住の首長訪問を20回、行政と連携した理解促進活動を26回実施。住みやすい街づくりの協力を依頼する
 - ・市民や団体向けに盲導犬デモンストラレーションを263回実施し、多くの方々に対し盲導犬事業への理解を促進
 - ・富士ハーネスでは、個人や団体の見学者を積極的に受け入れ、盲導犬や視覚障害に関する正しい理解の促進に取り組む
 - ・病院等への訪問を実施し、入院患者への動物介在活動を行う。医療機関での動物介在療法に協力、発展に貢献
 - ・第32回盲導犬育成チャリティゴルフ大会を開催
- 2 若年層への教育活動
 - ・小中学校を訪問して福祉授業を230回、オンラインで8回実施。視覚障害に関する正しい情報・知識を提供
 - ・教科書出版社への情報提供を行う
- 3 アドボカシー活動
 - ・盲導犬ユーザーから訴えのあった受け入れ拒否事例に対し、問題解決の対応を行う
- 4 広報
 - ・マスメディアでの広報活動
 - ・デジタルコンテンツを拡充。SNSでの情報配信を強化、ホームページの全面改修を実施
 - ・会報誌『盲導犬くらぶ』を年4回各5万部発行・発送
 - ・「受け入れ意識実態調査」を実施し、調査結果を活用した広報活動を展開
 - ・情報管理の徹底とリスク管理体制の強化

2026年度予算

(単位:円)

科目	2026年度	前年度
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産等運用益	46,820,000	30,000,000
受取会費	290,000,000	290,000,000
事業収益	111,090,000	31,500,000
受取補助金等	43,310,000	51,140,000
受取寄付金	1,411,690,000	1,226,860,000
雑収益	2,090,000	500,000
経常収益計	1,905,000,000	1,630,000,000
(2) 経常費用		
盲導犬育成事業費	594,009,000	534,880,000
盲導犬歩行指導員等育成事業費	43,758,000	44,090,000
調査研究事業費	11,840,000	15,840,000
視覚障害支援事業費	91,881,000	103,720,000
広報・普及推進事業費	326,144,000	294,470,000
国際事業費	109,715,000	23,040,000
助成事業費	6,315,000	6,660,000
訓練センター管理費	287,602,000	230,120,000
事業共通費(減価償却費等)	124,000,000	114,000,000
公益目的事業費計	1,595,264,000	1,366,820,000
法人管理費	309,736,000	263,180,000
経常費用計	1,905,000,000	1,630,000,000
当期経常増減額	0	0
2. 固定資産等投資活動増減の部		
固定資産等投資活動収入	0	0
固定資産等投資活動支出	1,328,262,308	474,180,000
固定資産等投資活動増減額	△1,328,262,308	△474,180,000
当期増減差額	△1,328,262,308	△474,180,000

国際事業

- 1 海外等他団体の育成犬を盲導犬として認定し「認定証」を発行、海外からの旅行者に「期間限定証明書」を発行
- 2 国際盲導犬連盟(IGDF)へ理事、査察員及び委員を派遣
- 3 IGDFカンファレンスおよび繁殖ワークショップをホスト団体として横浜で開催

関係団体協力事業

- 1 ユーザーやボランティアの団体との協力・連携
- 2 国内外の盲導犬関連団体との連携強化
- 3 大災害時における視覚障害者支援事業への協力
- 4 眼科医関連団体との連携強化
- 5 視覚障害リハビリテーション関連団体との連携強化

助成事業

- ・白杖等の歩行訓練事業助成の継続により歩行訓練事業を後押しし、盲導犬の需要増加へつなげる
- ・昨年度申請のあった団体のうち6団体へ助成金を交付

その他

- 1 人材育成
- 2 情報の一元管理を推進、施設設備や資産管理を最適化
- 3 デジタル活用によって作業軽減や生産性向上など効率化を推進



引退後ふたたび家族に ウイと過ごす穏やかな毎日

島根あさひ訓練センター 引退犬飼育ボランティア ● 東さん一家 ● (島根県大田市)



2025年8月から引退犬のウイとの生活を始めた東晴美さんと裕人さん夫妻。実はウイは、かつて晴美さんがパピーウォーカーとして初めて育てた、非常に縁の深い犬です。タイミングと縁が重なり、現役を引退したウイは再び晴美さんのもとへやってきました。「大人になったウイは、子どものころと変わらず、もの怖じしないおだやかな性格でしたね」と晴美さん。人が多い場所へ出かけても動じることがなく、どこに連れて行ってもゆったりと構えているそうです。

察しよさも昔と変わりません。引退した今はお気に入りのベッドでくつろいでいることが多いものの、物音や人の気配がするとスッと体を起こします。「寝ているようです。私たちがウイを見守る一方で、ウイもまた私たちのことを見守ってくれている。そんなふうにお互いを気にかけてあえる存在が、とてもうれしいんです」



←毎日、ウイと会える時間を楽しみに待っている、晴美さんご両親。ウイは2人にとって孫のような存在だそう



→とにかく人が好きなウイ。晴美さんがボランティアで通っている図書館でも大人気！知っている人に会うと、しっぽもお尻も勢いよくフリフリしてうれしさを体いっぱい表現

再び一緒に暮らし始めて、パピーの頃と変わったなと感じるのは、全く吠えなくなったこと。「子どものころはおしゃべりな男の子だったんですよ」と晴美さんは当時を笑顔で振り返ります。一方で、うれしい気持ちはすぐ態度に表れるそう。可愛がってくれる人たちのことをよく覚えていて、街で再会すると、腰からお尻を大きく振って喜ぶのだとか。それは、近くに住む晴美さんご両親に会いに行くときも同じです。「ウイが一番うれしそうにしているのは実家かもしれません。子どものころ育ったなじみのある家ですし、私の両親も一緒に過ごした家族ですから」

ウイを迎えてから、東さん夫妻の生活にも変化が生まれました。朝は、ウイが2人を起こし散歩に誘うところから一日が始まります。図書館へ一緒に出かける日もあれば、夕方に両親の家を訪ねることも。休日はカフェやドッグランへ。「ウイが来てから、夫婦で一緒に過ごす時間が長くなりました。両親もウイのことをよく話しています」と晴美さんは微笑みます。

裕人さんも、ウイとの日々は幸せで満ちていると言います。「引退犬は落ち着いて一緒に暮らすことができます。穏やかな時間を大切にしたい人にとって、引退犬との暮らしはとても魅力的だと思います」生活を始めるにあたり、夫婦で決めたルールがあります。それは、ウイが盲導犬として身につけた習慣を、そのまま大切に守り続けていくこと。

↑音訳ボランティアをする晴美さんと、自作キーボードの作成などで晴美さんを支える裕人さん。ウイと一緒にカフェで穏やかな時間を楽しみます。おとなしいウイを歓迎してくれるカフェも多いそう

せっかく積み重ねてきた訓練の成果を忘れさせたくないんです。きっと楽しみながら身につけたことですから。だから私たちは今でも、ユーザーさんと同じようにコマンド*を使いますし、人間の食べ物と犬の食べ物はきちんと分けています。排泄ベルトも、いつも使っています。それは、盲導犬として生きてきたウイへの敬意であり、安心して過ごせる環境を守ってあげたいという愛情の表れでもあります。

大人になったウイとの暮らしは、まだ半年。これから一緒にやりたいこと、行きたい場所がたくさんあるそうです。「ウイはどこに連れて行っても安心なので、いつか一緒に旅行に行きたいねと話しているんです」そう語る晴美さんの言葉に、裕人さんもうれしそうに大きくなすきます。夫婦と一頭の穏やかな毎日が、これからも長く続いていきますように。

*コマンド：犬に行動を伝えるための合図

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介します

地域とともに広がる、盲導犬への取り組み



◀募金箱の取り組みを進めてきた広報CSR推進室の門田さん。活動の広がりを支えてきました

切だと思いました」と話す門田さんは、店舗ごとに状況や理解度が異なる中で丁寧に趣旨を伝えるため、一店舗ずつ訪問し、全店舗に設置を依頼。社内への周知も進め、少しずつ活動の輪を広げていきました。

- 現場とともに育てていく
- 仕組み

募金箱の運用では、門田さんが中心となり、店舗ごとに見せ方や設置方法を工夫。「より身近に感じてもらえるように」と、

● 企業全体へと広がった盲導犬募金箱

神奈川トヨタ自動車株式会社は、神奈川県内で自動車の販売や整備、保険など幅広い事業を展開。1939年の創業以来、地域とのつながりを大切に歩んできました。

盲導犬に関わる活動は、法人賛助会員となった2012年からは始まり、2020年の4版社の統合をきっかけに企業全体へと広がりました。募金箱の設置や福祉授業の実施に加え、グループ従業員向けの受け入れセミナーの開催など、多様なかたちで行われています。

その立ち上げを担ったのが広報CSR推進室の門田さんです。「まずは自分たちが理解し、伝えていくことが大

名前を付けるアイデアなども提案し、現場と連携しながら定着を図りました。現在は、特別支援学校などから採用した社員が在籍する神奈川トヨタ自動車 業務サポート室のスタッフが中心となって募金の集計作業などを担っています。

また、2022年には小学校で福祉授業を実施。盲導犬ユーザーを招き、子どもたちに向けて講話が行われました。神奈川トヨタ自動車は学校とユーザーをつなぐ役割を担い、学びの機会を支えています。普段なかなか触れる機会の少ない盲導犬について、実際の話を直接聞くことで、子どもたちはより具体的にイメージできる時間となりました。

盲導犬だけでなく視覚障害についても理解を深める内容となり、実際

の生活や盲導犬との関わりが語られ、理解を深めるきっかけとなっています。「子どもたちが真剣に耳を傾けてくれている姿が印象的でした」と門田さんは振り返ります。

● つながりが生んだ新しい支援のかたち

神奈川トヨタ自動車は、協会への支援の一環として、神奈川フィルハーモニー管弦楽団のリハーサルを盲導犬の訓練の場として提供しています。同楽団を長年支援してきたつながりから実現した取り組みです。会場では、訓練犬が静かに見守る中で演奏が行われました。普段とは異なる環境での実施となり、関係者にとって新たな気づきにつながる機会となりました。

こうした経験を通じて、門田さん自身にも意識の変化が生まれています。街中で白杖を持つ方に自然に声をかけるなど、日常の行動にもつながっています。

「特別なことではなく、できることを少しずつ続けていくことが大切だと思います」と門田さん。神奈川トヨタ自動車はこれからも、地域とともに盲導犬への理解を広げる取り組みを重ねていきます。



↑神奈川トヨタ自動車 業務サポート室のスタッフによる募金の集計作業の様子。社内のさまざまな業務を支えています

生まれました



2026.1.18 誕生

オス 2頭
メス 3頭
父犬モンゴメリー(LR) ×
母犬シオン(LR)



2026.2.24 誕生

オス 3頭
メス 3頭
父犬オアシス(LR) ×
母犬ルカ(LR)

みなさんに支えられて

12月11日～3月10日

犬種記号
LR/ ラブラドル・レトリバー
GR/ ゴールデン・レトリバー



2026.2.28 誕生

オス 3頭
メス 6頭
父犬グレッグ(LR) ×
母犬エスティ(LR)

協会の公式ブログや

YouTubeでは【親子だより】で子育ての様子などを掲載中

公式ブログ



YouTube



委託しました

父犬ユーボー(LR) × 母犬ユズカ(LR)	父犬ワトソン(LR) × 母犬ポム(LR)
ラファ♂ 長尾 浩史さん	オッティ♀ 佐藤 文俊さん
レア♀ 松田 芳治さん	オッポ♀ 山田 雅美さん
レミ♀ 瀬尾 美羽子さん	オリバー♂ 工藤 美佳さん
レイ♀ 遠藤 未央子さん	オディール♀ 村上 優子さん
ロビン♀ 吉川 哲生さん	オール♂ 田口 恵美子さん
	オズ♂ 保科 朗子さん

父犬ジエド(LR) × 母犬ラテ(LR)	父犬リンカーン(LR) × 母犬うた(LR)
スパーク♂ 四宮 真奈美さん	プリモ♂ 山科 智子さん

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
ハンナ♀	南野 恵子さん	辻元 久志さん	2025.12.17
ペギー♀	渡辺あい子さん	森本 年郎さん	2026.1.18
ジェシー♀	川上 功さん	岸 利子さん	2026.1.26
バズ♂	宮田 豊さん 宮田 正子さん	寺尾 好弘さん	2026.1.27
ショコラ♀	石原 賀代子さん	福岡 泰子さん	2026.2.21
ハノン♀	小松 静香さん	小林 信久さん	2026.3.8

盲導犬育成状況

合計頭数...691頭(2026年3月31日現在)

委託前パピー	15頭	繁殖犬	42頭
パピー	79頭	PR犬	10頭
訓練犬	73頭	引退犬	193頭
盲導犬	215頭	繁殖引退犬	64頭

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ペリー♂	平石 沙佳さん	川畑 広子さん	2025.12.17
キノ♀	愛沢 法子さん	調整中	2025.12.23
イーラ♀	足立 明子さん	田中 貴文さん	2026.1.9
アイジュ♀	倉垣内 聡美さん	高橋 文男さん	2026.1.26
ウイスパー♂	圓藤 明彦さん	宮保 友子さん	2026.2.4
テトラ♂	小野 良丈さん	調整中	2026.2.11
ヴァニラ♂	大城 喜和子さん	調整中	2026.2.13
ケイティ♀	小松 静香さん	調整中	2026.2.23
ジオ♂	小林 未佳さん	調整中	2026.3.2
ショア♀	千野 優季さん	西尾 昇さん	2026.3.2
ニア♀	半澤 絵美子さん	調整中	2026.3.9

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば

みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します

編集室より

いつも、この「盲導犬くらぶ」を社内でも閲覧し、皆でほっこりしています。私たちの会社に募金箱を設置したのは2013年からです。音楽資料のデータベース作成を専門とする会社で、来客が多いわけではありませんが、皆さまから寄せられた募金を少しずつ寄付しています。

会社に募金箱を設置することになったきっかけは、通勤時にバスの車内でお仕事の盲導犬の姿を見て強く感動したことでした。その後、ユーザーさんとご近所だと分かり、時々声をかけるようになりました。私の家の前がユーザーさんの通勤ルートになっており、歴代の盲導犬たちと一緒に通勤する姿を目にしています。デビュー当時は少し落ち着きなく見えた今のパートナーも、今では堂々とした歩きぶりで貴様を感じます。

この出会いをきっかけに、私は妻と訓練センターの見学にも行きました。コロナ禍には社員の女性がかわいいマスクを作って着けてくれるなど、私たちの会社では盲導犬がとても身近な存在になっています。

多くの方に盲導犬のことを知ってもらいたいという思いから、お取引先へ送る郵便物には、募金してくれた方に渡す盲導犬協会のシールを同封しています。

今後も、私たちにできることを少しずつお手伝いしていけたらいいなと思っています。

東京都 株式会社トッカータより



狛江第三中学校(岩瀬敏郎校長)では、生徒が中心となり、1991年より毎年、募金活動「銀杏募金」が続けられています。その名の由来は、校内にあるイチョウの実から銀杏を加工して袋詰めする作業を全校で行い、返礼品として渡しているためです。寄付先はその時世に合わせて生徒が決定していますが、昨年度は当協会が寄付先として選ばれました。

狛江駅前、和泉多摩川駅前で行われた募金活動で集められた募金額は209,532円。2月9日の全校集会で贈呈式が行われ、当協会の職員に目録が手渡されました。

この贈呈式では、生徒の皆さんに寄付金の使い道として当協会の活動を説明するとともに、厚いご支援へのお礼を伝えました。生徒の皆様、地域の皆様に、改めてお礼申し上げます。



『盲導犬くらぶ』の感想やご意見をお待ちしております。

●あて先

公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田3丁目30-16

ホリゾンワンビル5階

FAX:03-5452-1267 e-mail: info@moudouken.net

無理なく、続けられる
NATURALLY PLUS ナチュラループラス®
The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラループラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 0120-989-329 FAX 03-6679-2494 URL www.naturally-plus.com

かわいいチャリティーグッズで
盲導犬を応援
しませんか？

あつねん！私にできること！
一般社団法人
盲導犬総合支援センター

チャリティーグッズの購入ができる
盲導犬サポートショップはこちら

intage
Know today, Power tomorrow

株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
http://www.intage.co.jp/

Cue monitor キューモニター募集
https://www.cue-monitor.jp/

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています

わかさ生活